

しんきんグリーンプロジェクトへの期待

神戸大学 経済経営研究所教授 家森 信善



神戸大学経済経営研究所と信金中央金庫は、中小企業の脱炭素経営の実現に向けた課題を明らかにし、具体的な支援策を立案するため、2023年8月より共同研究を行ってきた。

最近の異常気象から、信用金庫の取引先である中小企業の多くは、社会全体として脱炭素の必要性には同意されている。しかし、多くの経営課題がある中で、脱炭素は自社が優先的に取り組む問題とは思っていらっしゃる方が多いのが実態である。自社が取り組んだところでCO₂の削減量はわずかであり、それによって費用が増えるのに自社にとってのメリットは乏しいと感じるためである。しかし、多くの、いわば普通の企業に取り組んでもらわなければ、地域の脱炭素は進まない。こうした企業に気づきを与えて、その取り組みを伴走支援する役割が、信用金庫に期待されている。

私は、環境省の「ESG ファイナンスアワードジャパン選定委員会」委員や「地域におけるESG金融促進事業意見交換会」委員等として、地域金融機関がESGに取り組む現場を見てきた。例えば、ESG ファイナンスアワードジャパンでは、メガバンク等が受賞する中で、2021年度に浜松いわた信用金庫(静岡県)が特別賞を受賞した。また、浜松いわた信用金庫に限らず、甲乙つけがたい高いレベルで取り組んでいる信用金庫が少なくないことも知っている。こうした動きを信用金庫業界全体のムーブメントにしていきたいと想い、共同研究を始めた。

まず、中小企業の脱炭素化への取り組みの実態を知り、課題を明らかにすることが必要と考え、現場の事情に詳しい信金中央金庫のスタッフの皆さんと一緒に、十分な情報を引き出すために調査票を作成した。2024年1～2月に調査を行い、約5,000人の回答を得た。その後、私と尾島雅夫氏にて回答を分析し、その分析結果を共同研究のメンバーと議論しながら、成果をまとめることができた。まさに、産学連携による成果である。

詳しくは、論文を参照いただくとして、特に重要であると思う点をまとめる。

第1に、中小企業の脱炭素化への関心の度合いはまちまちだということである。したがって、支援の在り方も、企業に合わせて気づきを与えるレベルのものから、具体的な課題を解決するためのソリューションの提供、会社の戦略レベルの支援まで、様々となる。信用金庫の道具箱には、取引先の様々な事情に対応できるように、いろいろな道具を用意しておかねばならない。道具箱を充実させる上では、信金中央金庫の役割に期待している。

第2に、無関心層が多い現実を受け入れる必要がある。無関心層の多くは、「余裕がない」と回答している。つまり、脱炭素化だけをいくら提案しても企業の行動に変化は生じない。最も効果的なのは、本業の改善につながる提案に脱炭素化の要素を組み込むことである。中長期的に収益を上げられる企業体でないと、脱炭素化という中長期的な課題に取り組む意欲は生まれない。したがって、支援者が企業の本業を強くするアイデアやノウハウを持っているかどうか、脱炭素化推進の鍵になる。取引先の強みや弱みを十分に理解している信用金庫だからこそ、脱炭素化支援の担い手として期待されている。

つまり、「脱炭素化は社会の義務です」というだけでは企業の行動は変わらない。しかし、脱炭素化に取り組むと業績が良くなることがわかれば、企業は自主的に脱炭素化に取り組む。脱炭素化をチャンスとするように、好循環を内包する提案を目指す必要がある。確かにこれは簡単なことではない。しかし、難しいことだからこそ、信用金庫が持ち前の強みを発揮できる余地は大きい。脱炭素コンサルタントではなく、事業全体を見られる信用金庫だから、無理のない現実的な脱炭素の取組みを応援できるはずである。

地域の未来を支えるために、信用金庫業界全体が連携し、脱炭素化を共通の課題として共有することが重要である。「しんきんグリーンプロジェクト」は、その基盤を築く重要なステップである。このプロジェクトを通じて、全国の信用金庫がそれぞれの地域の特色を活かしながら、グリーン分野の取組みを深めていくことを心より願っている。信用金庫業界全体が一丸となり、地域の未来を支える脱炭素化の実現に向けた道を切り開いてほしい。